

# 錦江町人口ビジョン（概要版）

平成 27 年 7 月

鹿児島県 錦江町

# ～ 目 次 ～

<b>1</b>	<b>人口動向分析</b> .....	<b>1</b>
	(1) 総人口，年齢3区分別人口の推移と将来推計.....	1
	(2) 出生・死亡，転入・転出の推移.....	2
	(3) 合計特殊出生率の推移.....	3
	(4) 地区別人口と高齢化率の推移と将来推計.....	4
	(5) 地域間の人口移動の状況.....	8
	(6) 人口移動の状況.....	9
	(7) 町内人口移動の状況.....	10
<b>2</b>	<b>将来人口推計</b> .....	<b>11</b>
	(1) パターン別の将来人口推計.....	11
	(2) パターン1，2，3の総人口の比較と分析.....	12

# 1. 人口動向分析

## (1) 総人口、年齢3区分別人口の推移と将来推計

錦江町の総人口は、平成 22 (2010) 年に 10,000 人を割り込み、総人口は 8,981 人となっています。(平成 27 年 7 月 1 日現在では 8,328 人。)

国立社会保障・人口問題研究所 (以下社人研) の人口推計を用いた推計によると、錦江町の総人口は、平成 52 (2040) 年には 5,000 人を割り込み、平成 72 (2060) 年には 2,856 人まで減少すると推計されています。

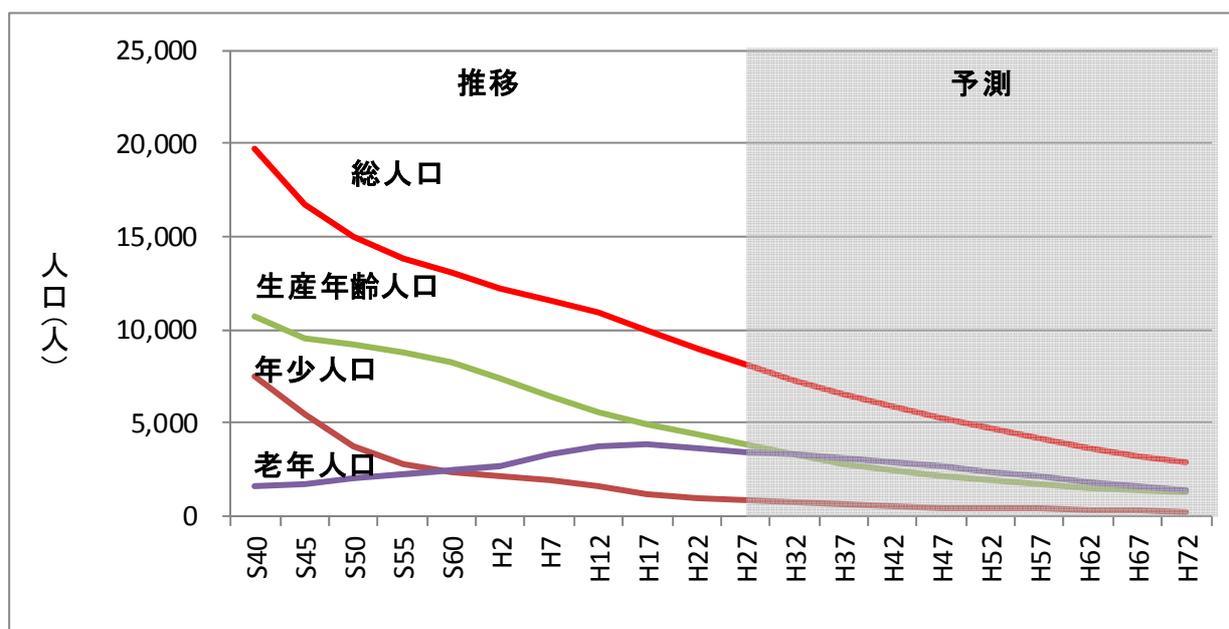
生産年齢人口・年少人口は昭和 40 (1965) 年以降、減少が続いています。

一方、老年人口は昭和 40 (1965) 年以降、増加が続き、昭和 60 (1985) 年には年少人口を上回りましたが、近年は増加傾向が弱まり、平成 22 (2010) 年には平成 17 (2005) 年と比較して減少に転じています。

将来推計においては、3 区分すべての人口が減少していくと推計されています。

※年少人口…15 歳未満人口、生産年齢人口…15 歳以上 65 歳未満人口、老年人口…65 歳以上人口

年齢3区分別人口の推移と予測



年齢3区分人口の推移	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22
総人口(人)	19,726	16,736	14,959	13,829	13,043	12,239	11,608	10,889	10,015	8,981
年少人口(人)	7,465	5,455	3,777	2,803	2,388	2,118	1,894	1,550	1,223	995
生産年齢人口(人)	10,692	9,554	9,158	8,809	8,222	7,416	6,375	5,606	4,918	4,394
老年人口(人)	1,569	1,727	2,024	2,217	2,433	2,705	3,339	3,733	3,874	3,592

年齢3区分人口の予測	H27	H32	H37	H42	H47	H52	H57	H62	H67	H72
総人口(人)	8,092	7,282	6,524	5,839	5,242	4,699	4,167	3,677	3,240	2,856
年少人口(人)	837	714	598	519	470	429	385	341	296	255
生産年齢人口(人)	3,855	3,283	2,830	2,456	2,146	1,890	1,679	1,488	1,365	1,235
老年人口(人)	3,400	3,285	3,096	2,865	2,625	2,380	2,103	1,847	1,579	1,366

※「国勢調査」「将来推計用ワークシート」より作成

## (2) 出生・死亡, 転入・転出の推移

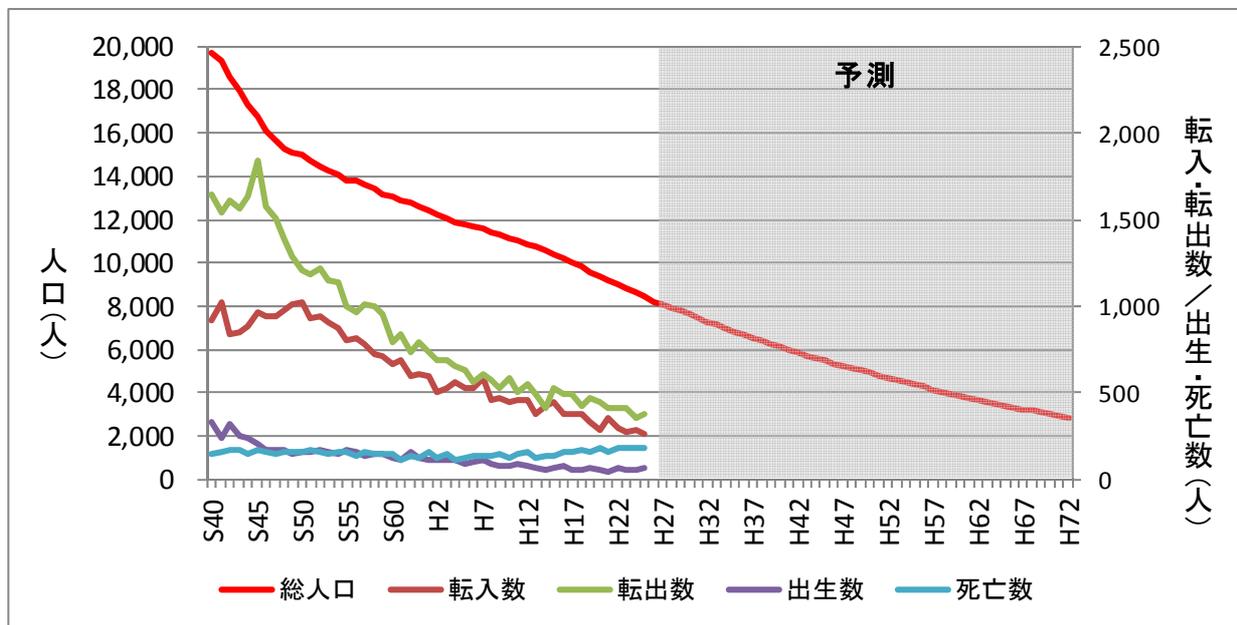
自然増減については、子どもを生き育てる世代「母親世代」の減少等を背景に出生数の減少が続き、昭和 63 (1988) 年以降、出生数が死亡数を下回る「自然減」が毎年続いています。現在は老年人口の増加を背景に死亡者数が増加傾向にあり、近年は年間 100 人を上回る「自然減」の状態となっています。

社会増減については、高度経済成長期である昭和 40 年代は集団就職等を背景に、転出数が転入数を大きく上回る「社会減」の状態でした。近年、「社会減」の傾向は弱まったものの、「社会減」の年が多くなっています。

※自然増減…出生と死亡による人口の増減。出生数が死亡数を上回れば自然増となる。

※社会増減…転入と転出による人口の増減。転入数が転出数を上回れば社会増となる。

出生・死亡数, 転入・転出数の推移



	S40	S41	S42	S43	S44	S45	S46	S47	S48	S49
転入数(人)	922	1,021	838	853	879	962	938	944	979	1,006
転出数(人)	1,649	1,542	1,611	1,561	1,635	1,841	1,576	1,507	1,390	1,283
出生数(人)	333	236	315	252	236	202	171	166	168	152
死亡数(人)	142	163	169	173	150	166	156	147	153	163

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
転入数(人)	372	372	328	290	360	299	271	286	258
転出数(人)	498	429	473	445	409	411	415	352	381
出生数(人)	53	56	65	56	47	69	56	53	62
死亡数(人)	157	175	164	183	158	184	186	176	184

※「鹿児島県統計年鑑」「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」「将来推計用ワークシート」より作成

### (3) 合計特殊出生率の推移

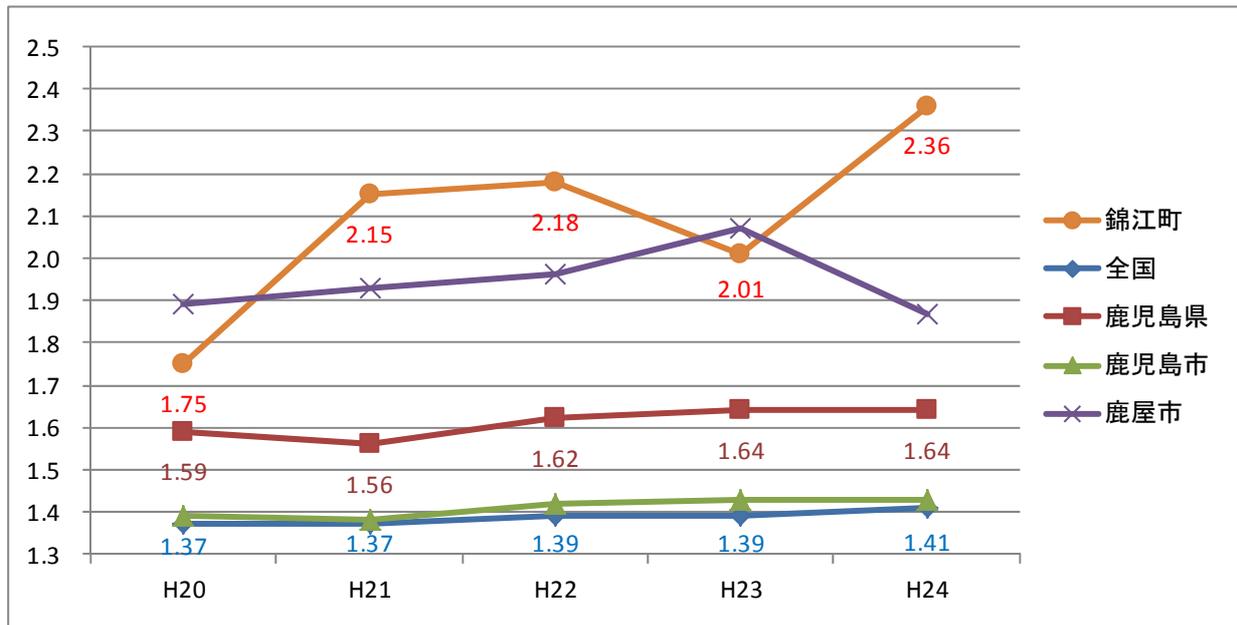
合計特殊出生率についてみると、平成 24 (2012) 年は 2.36 となっており、また平成 20 年から平成 24 年の平均値は 2.09 と、全国や鹿児島県の値、国民希望出生率の 1.8 や国の人口置換水準 2.07 を上回っています。

※合計特殊出生率…一人の女性が一生に産む子どもの目安となる指標

※国民希望出生率…国の若い世代の子どもを持ちたい希望が実現した場合に想定されている出生率

※人口置換水準…国の人口を維持するために必要とされる出生率

合計特殊出生率の推移



合計特殊出生率	H20	H21	H22	H23	H24
錦江町	1.75	2.15	2.18	2.01	2.36
全国	1.37	1.37	1.39	1.39	1.41
鹿児島県	1.59	1.56	1.62	1.64	1.64
鹿児島市	1.39	1.38	1.42	1.43	1.43
鹿屋市	1.89	1.93	1.96	2.07	1.87

※「錦江町子ども・子育て支援事業計画」「人口動態統計」「鹿児島県衛生統計年報」「鹿児島市統計書」「鹿屋市子ども・子育て支援事業計画」より作成

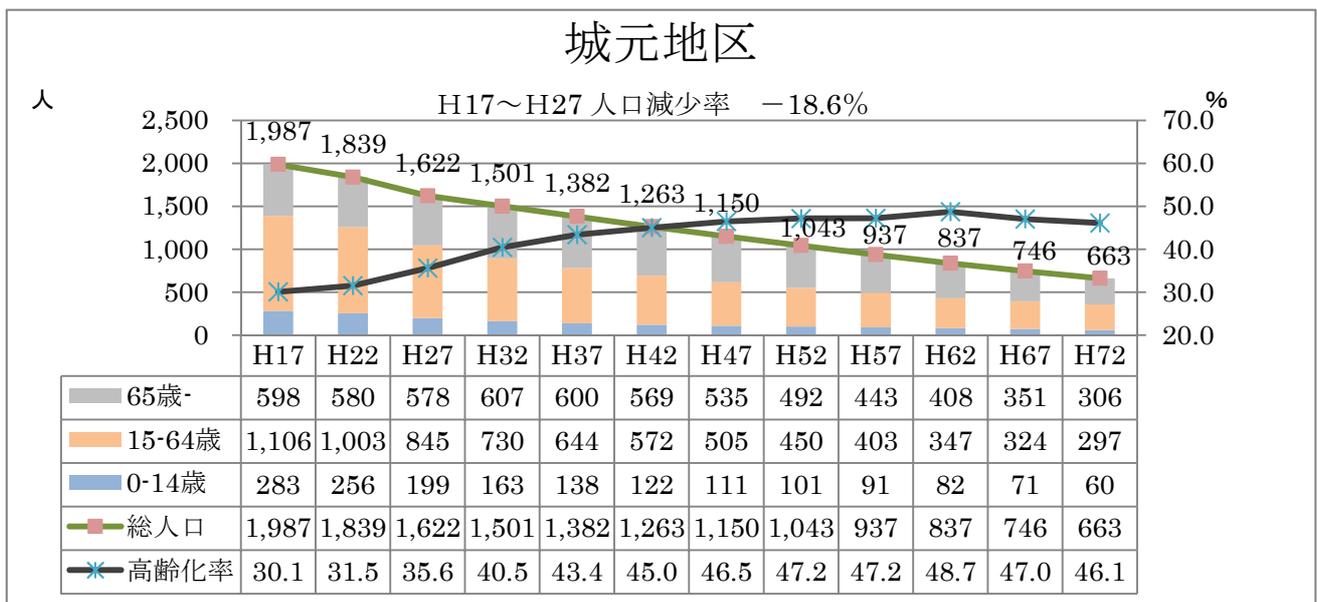
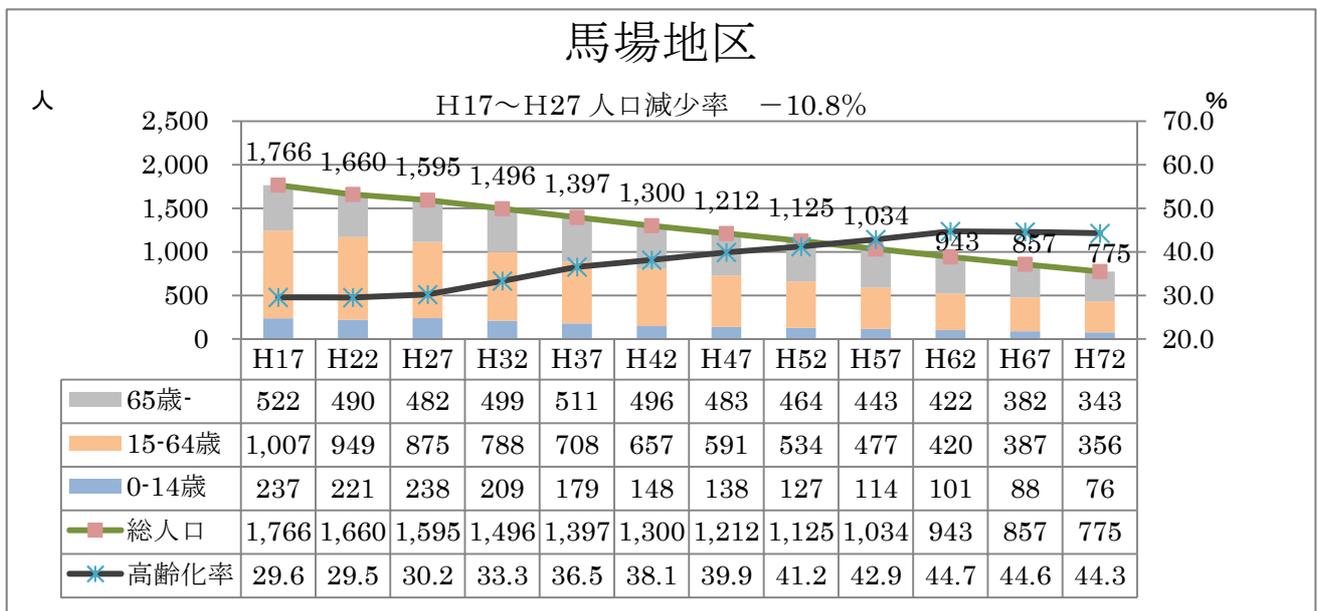
#### (4) 地区別人口と高齢化率の推移と将来推計

すべての地区において、平成 17～27 年の 10 年間の人口減少率が 10%を上回っており、池田地区・宿利原地区・上部地区・花瀬地区においては 25%を上回っています。

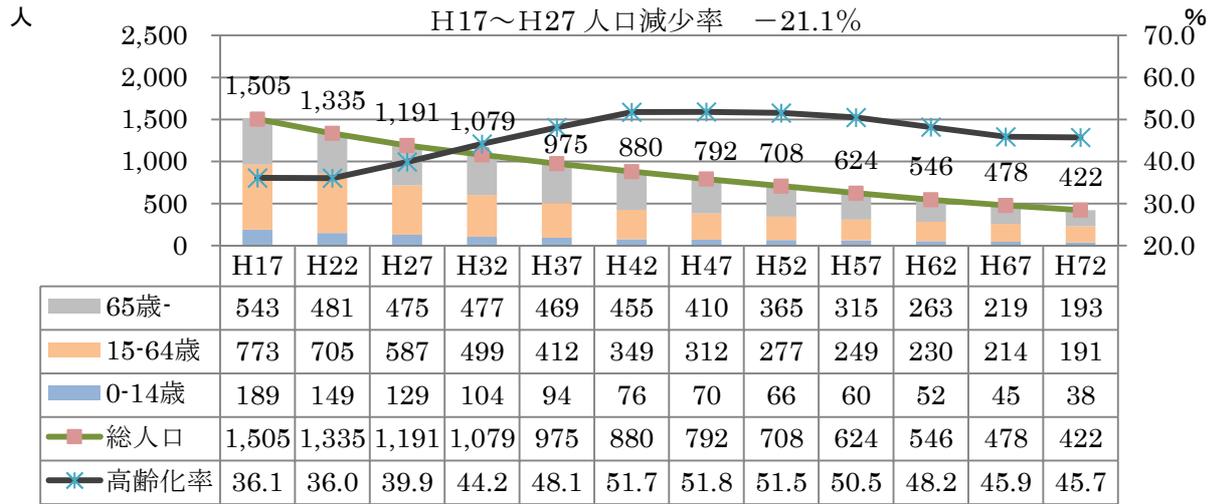
高齢化率については、ほとんどの地区で上昇傾向が見られます。城元地区・宿利原地区・花瀬地区においては 10 年前と比較して 5 ポイント以上の上昇が見られます。

将来推計については、馬場地区を除く 9 地区で、平成 72 (2060) 年の人口が平成 27 年の人口の半数以下になると推計されています。老年人口比率については、上部地区でピーク時に 60.4%、宿利原地区で 59.2%まで上昇すると推計されています。老年人口比率上昇のピークは、最も早い最も早い神川・川原・花瀬地区で平成 42 (2030) 年、最も遅い馬場地区で平成 67 (2055) 年に到来すると推計されています。

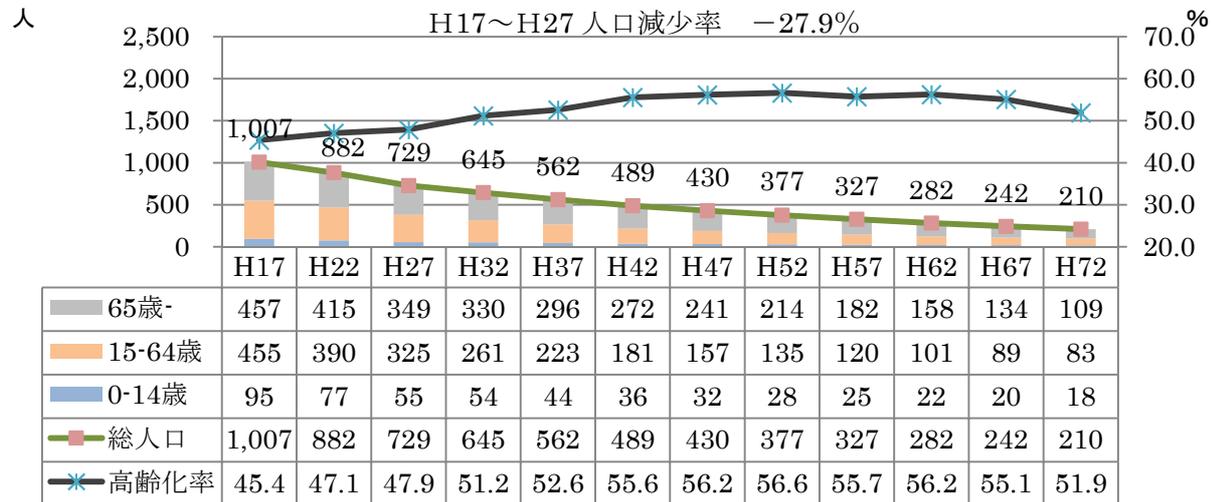
#### 地区別人口と高齢化率の推移と将来推計



## 神川地区



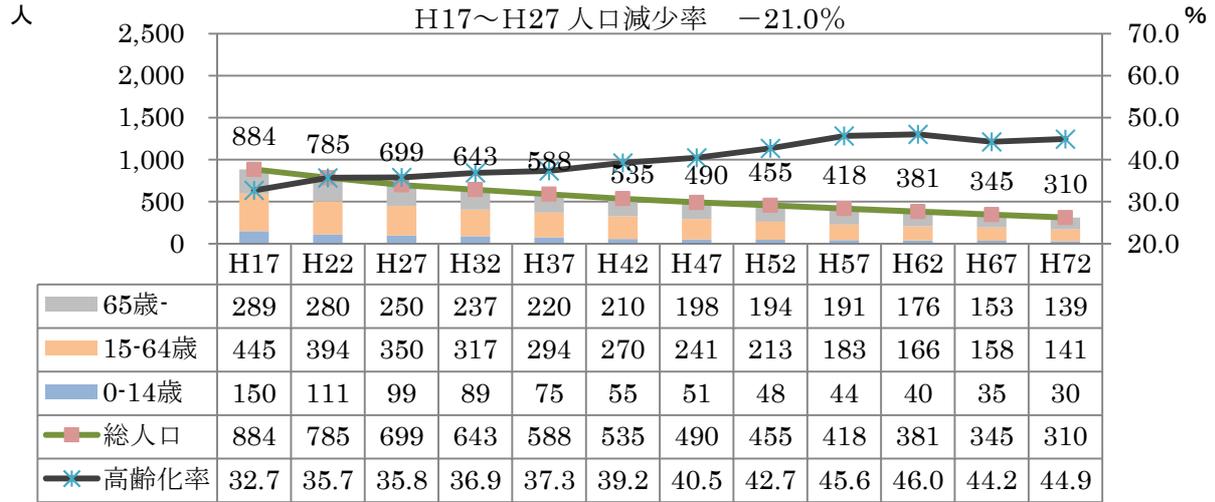
## 池田地区



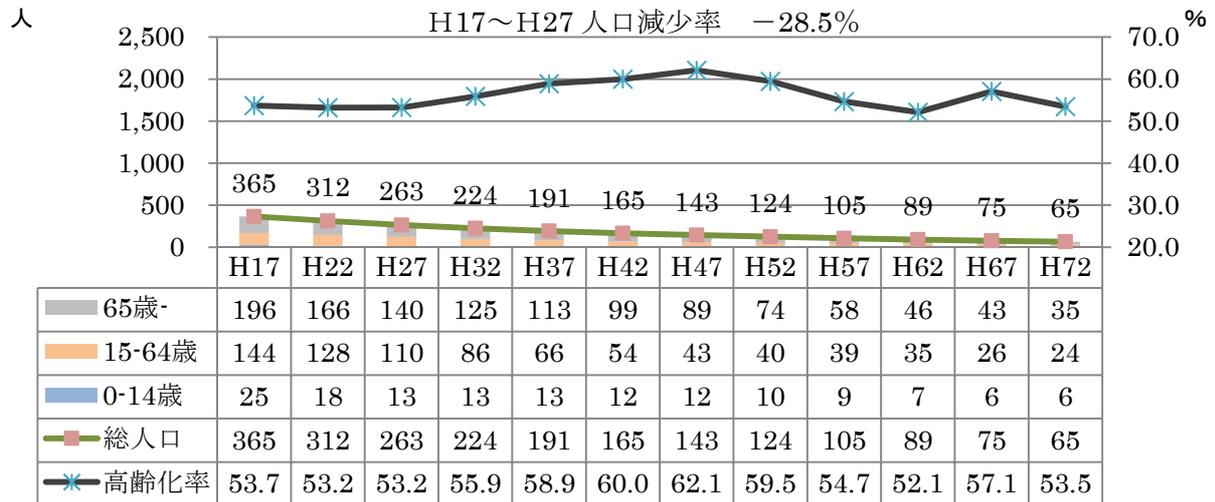
## 宿利原地区



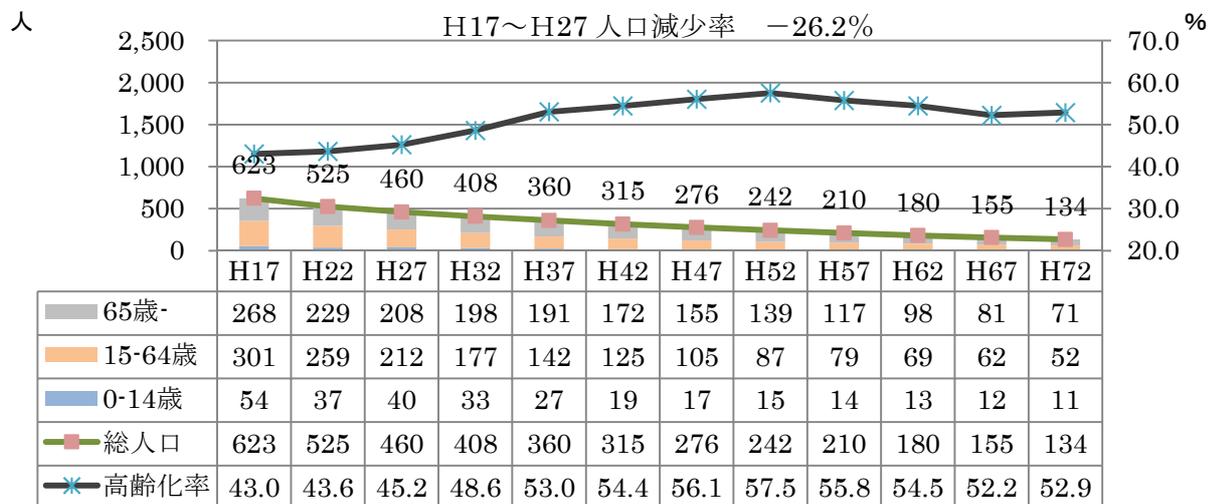
## 麓地区



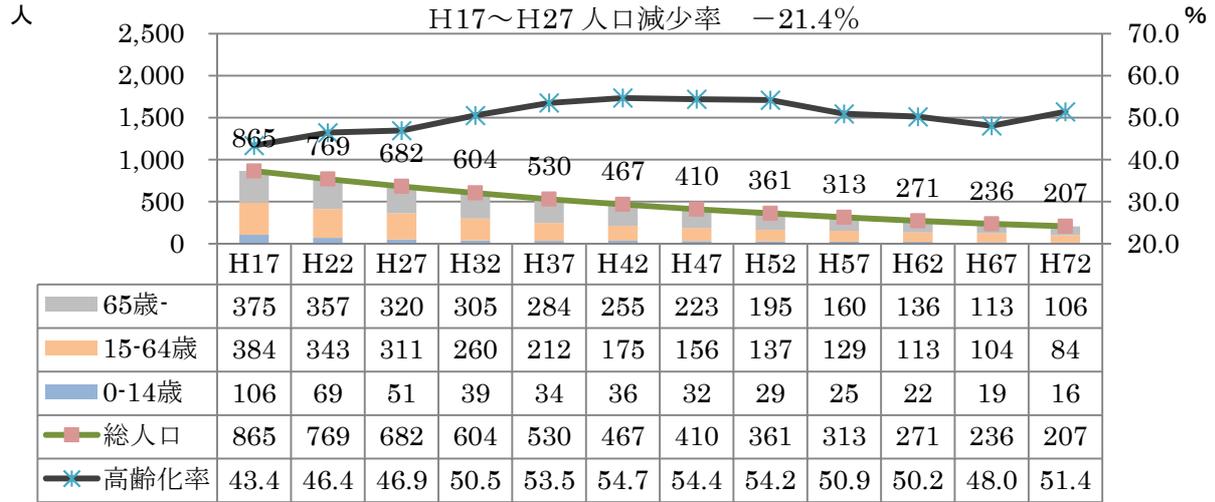
## 上部地区



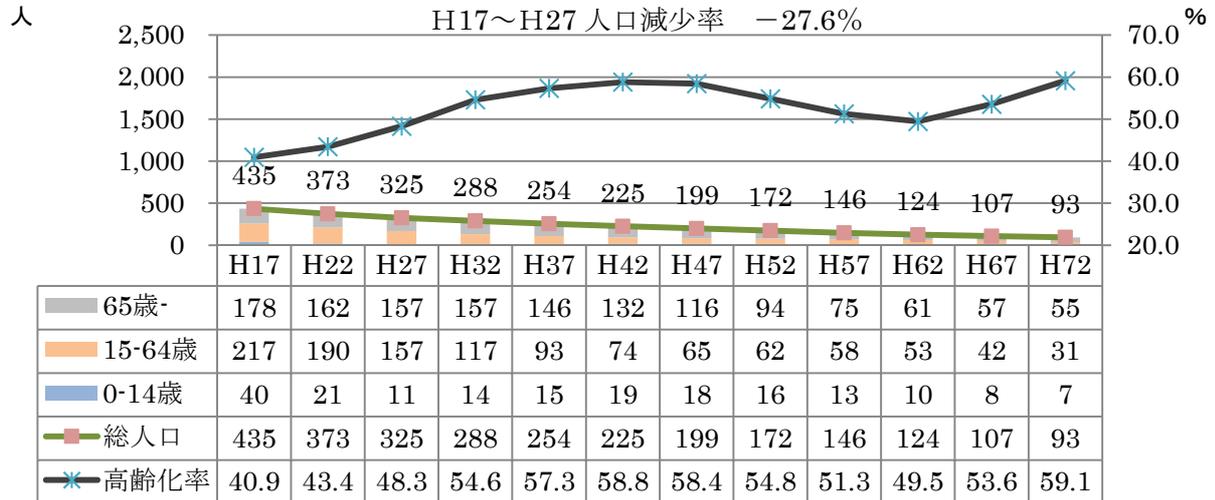
## 大原地区



## 川原地区



## 花瀬地区



※国立社会保障・人口問題研究所推計準拠による

## (5) 地域間の人口移動の状況

自治体別の純移動数について、転入超過は南大隅町が40人と最も多く、次いで、大阪府の13人、薩摩川内市の9人となっています。

一方、転出超過は鹿屋市が115人と最も多く、次いで、鹿児島市の20人、東京都の14人となっています。

鹿屋市への転出超過が最も大きくなっていることから、鹿屋市への転出超過を抑えることが、錦江町の「社会減」を抑えることにつながると考えられます。年齢階級別純移動数については、多くの年齢階級で転出超過となっており、特に若い世代においては顕著となっています。高齢者の転出超過については、病院への入院や施設への入所、子供との同居等を理由とする転出が考えられます。

錦江町の自治体別純移動数（平成24～25年）

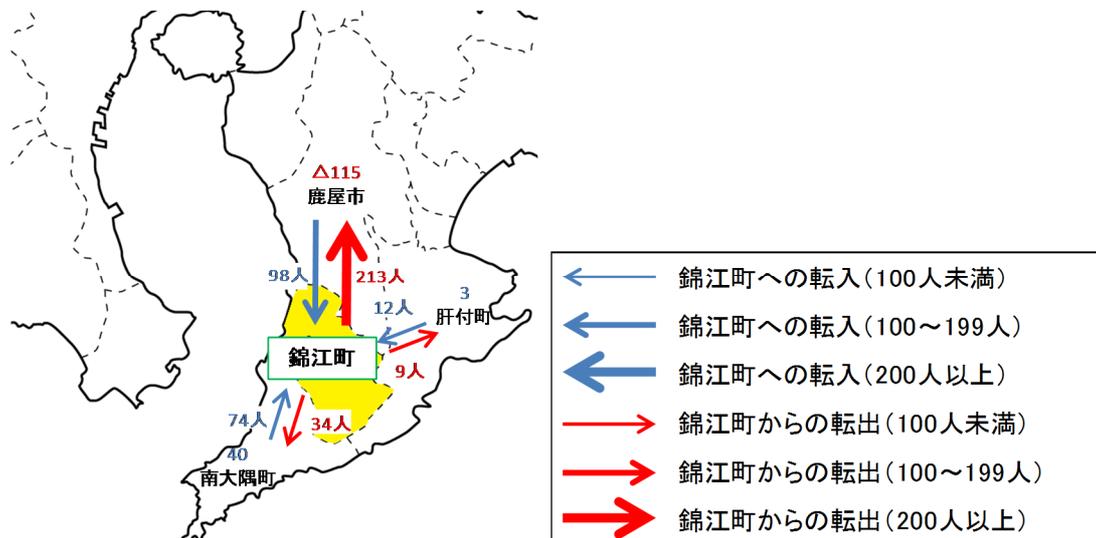
転入超過数・上位3自治体				転出超過数・上位3自治体			
	転入数	転出数	純移動数		転入数	転出数	純移動数
南大隅町	74	34	40	鹿屋市	98	213	△115
大阪府	34	21	13	鹿児島市	96	116	△20
薩摩川内市	11	2	9	東京都	10	24	△14

※まち・ひと・しごと創生本部事務局提供データ「(8)市町村別 転入元市町村別・性別・5歳階級別転入数, (9)市町村別 転出先市町村別・性別・5歳階級別転入数」より作成

※鹿児島県外の市区町村については都道府県単位にて集計

錦江町の周辺自治体との転入・転出の状況をみると、鹿屋市への転出超過が大きくなっていますが、肝付町・南大隅町の2町からは転入超過となっています。

錦江町と周辺市町村との転入・転出の状況（平成24～25年）



	鹿屋市	肝付町	南大隅町
純移動数(人)	△ 115	3	40
転入数(人)	98	12	74
転出数(人)	213	9	34

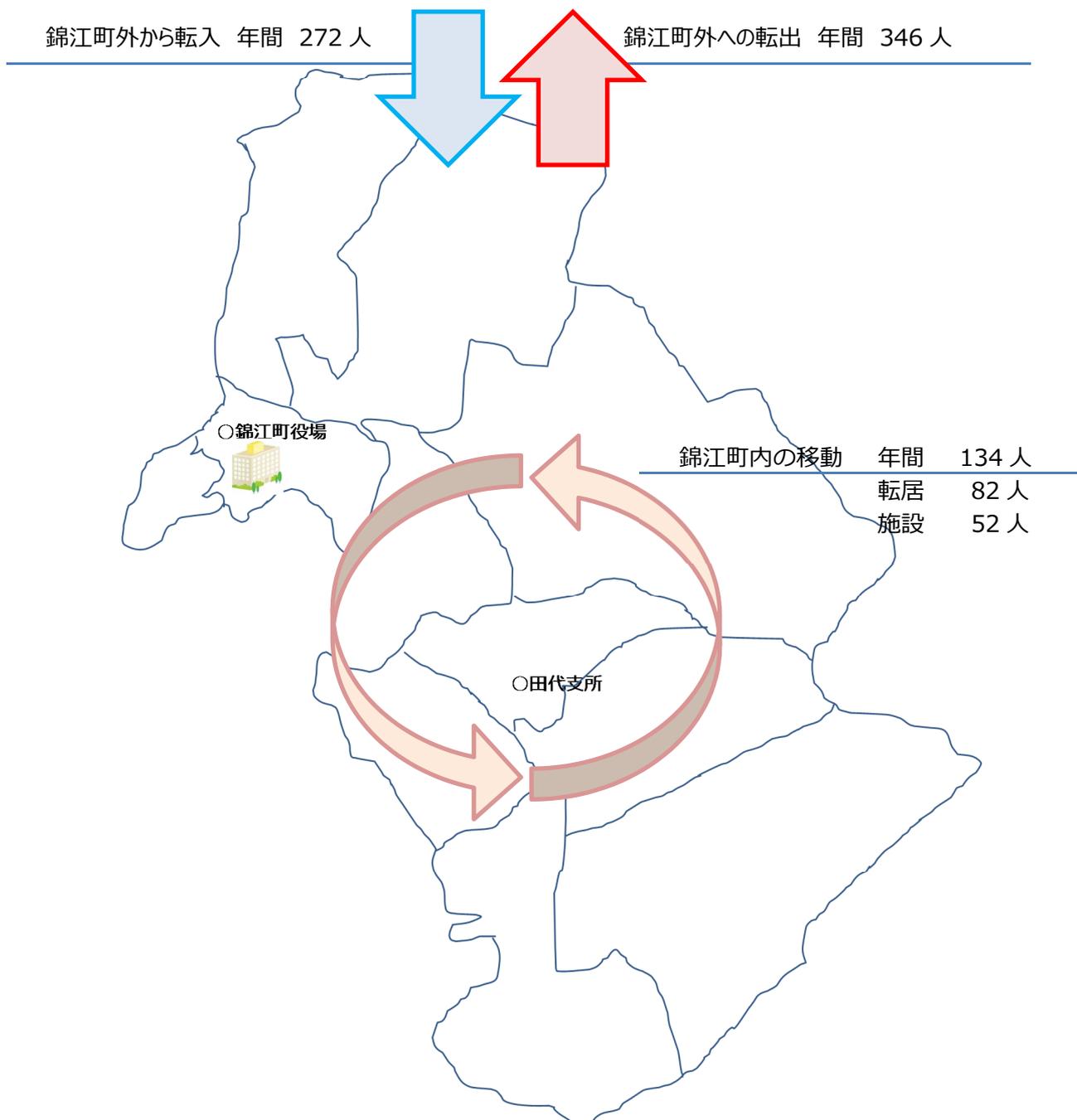
※まち・ひと・しごと創生本部事務局提供データ「(8)市町村別 転入元市町村別・性別・5歳階級別転入数, (9)市町村別 転出先市町村別・性別・5歳階級別転入数」より作成

## (6) 人口移動の状況

人口移動を年平均で見ると、錦江町への転入が年間 272 人、町外への転出が 346 人となっています。

しかし、人口の移動は、錦江町と他市町村との移動だけでなく、錦江町内での移動もあります。この町内の移動が、年間 134 人程度あり、介護が必要になったことなどによる施設等への移動が 52 人、純粹な移動が 82 人となっています。

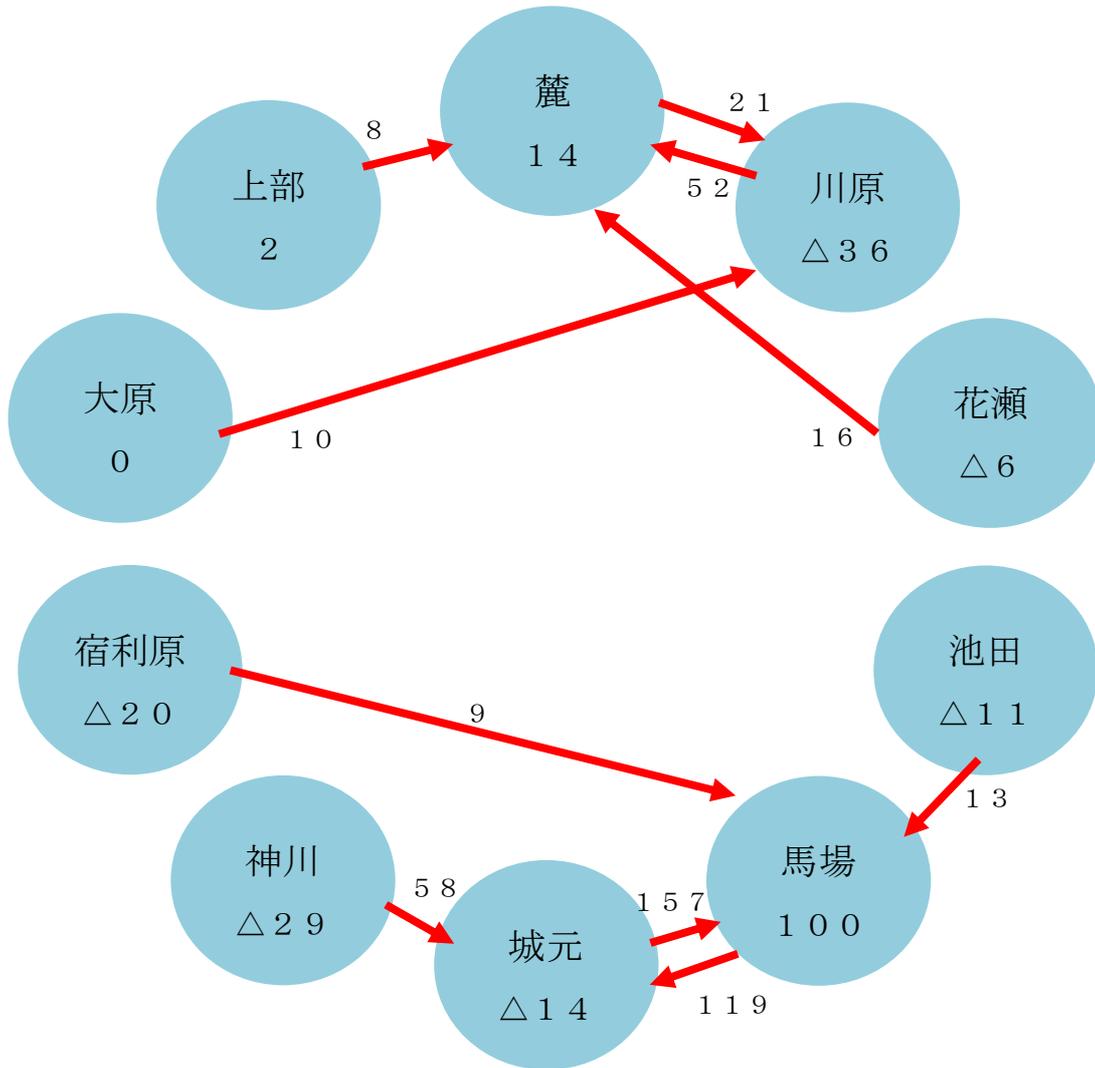
錦江町では、毎年町人口の 2% が町内で移動していることになります。



## (7) 町内人口移動の状況

旧大根占町の範囲においては、馬場地区への転居者数をもっとも多く、旧田代町の範囲においては、麓地区への転居者数が多くなっています。

地区間の人口移動（町内転居）の状況（平成17～26年）



※円の中の数値は、すべての地区間との出入りの合計（純移動数）

※矢印および矢印に付属する数値は、転居者数をもっとも多い転居先を表わしたもの

※「住民基本台帳」データの平成17年～平成26年までの町内移動（転居）者数により作成

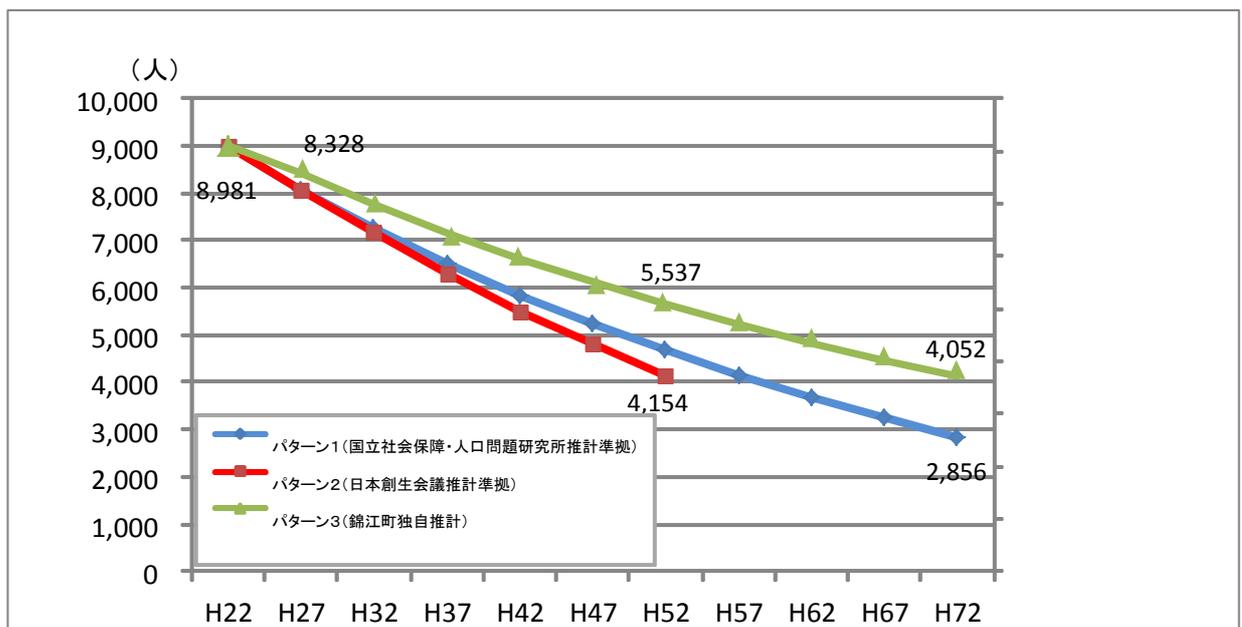
## 2. 将来人口推計

### (1) パターン別の将来人口推計

国から提供されたデータとワークシート，本町住民基本台帳のデータの活用等により，将来人口推計を行いました。推計においては，以下の3パターンを用いて行いました。

	各パターンの概要
パターン1	社人研（国立社会保障・人口問題研究所）推計に準拠。H22の人口を基準とし，出生や死亡，人口の移動などを仮定値により算出。
パターン2	日本創生会議推計に準拠。社人研推計をベースにしているが，人口移動については縮小しないと仮定している。
パターン3	錦江町独自推計。H27年6月末日の住民基本台帳人口（実数値）を基準とし，合計特殊出生率は，直近の実績値（H20～H24の平均値）である2.1からアンケート調査結果等を加味して試算した希望出生率2.3に段階的に近づくと仮定。また子育て世帯（夫婦と子ども2人）と定年退職後世帯（夫婦のみ）の移住がそれぞれ年間1組ずつあると仮定。

総人口の推計結果（パターン1，2，3）



総人口(人)	H22	H27	H32	H37	H42	H47	H52	H57	H62	H67	H72
パターン1	8,981	8,092	7,282	6,524	5,839	5,242	4,699	4,167	3,677	3,240	2,856
出生率	1.91	1.66	1.62	1.59	1.59	1.60	1.60	1.60	1.60	1.60	1.60
パターン2	8,981	8,092	7,175	6,302	5,509	4,803	4,154	-	-	-	-
出生率	1.91	1.66	1.62	1.59	1.59	1.60	1.60	1.60	1.60	1.60	1.60
パターン3	8,981	8,328	7,627	6,995	6,446	5,976	5,537	5,102	4,697	4,348	4,052
出生率	1.91	2.10	2.17	2.23	2.30	2.30	2.30	2.30	2.30	2.30	2.30

## (2) パターン1, 2, 3の人口構成の比較

パターン1, 2, 3による平成 52<sup>(2040)</sup> 年の総人口は、それぞれ 4,699 人, 4,154 人, 5,537 人となっております。

現在の錦江町は、人口が転出超過傾向にあり、全国の総移動数が平成 22<sup>(2010)</sup> 年から平成 27<sup>(2015)</sup> 年までと概ね同水準で推移するとの仮定に基づいたパターン2の推計では、人口減少がより進行する見通しとなっております。

平成 72<sup>(2060)</sup> 年の総人口について、錦江町独自推計の場合には 4,052 人と推計していません。

パターン1, 2, 3の総人口推計の比較

単位:人 ※「将来推計用ワークシート」より作成		総人口	0-14 歳 人口(人)		15-64 歳 人口	65 歳以上 人口	20-39 歳 女性人口
			うち 0-4 歳人口				
H22	現状値	8,981	995	293	4,394	3,592	606
H52	パターン1 (社人研推計準拠)	4,699	429	131	1,890	2,380	319
	パターン2 (日本創生会議推計準拠)	4,154	328	92	1,513	2,312	200
	パターン3 (錦江町独自推計)	5,537	743	233	2,287	2,507	391
H72	パターン1 (社人研推計準拠)	2,856	255	73	1,235	1,366	180
	パターン3 (錦江町独自推計)	4,052	603	187	1,903	1,546	337